

## 「業務プロセス可視化ツール」骨子（案）

## 1. ツールの目的について

- 人手不足の解消を目指すものづくり中小企業がまず取り組むべき「業務プロセスの可視化」を、「ワークショップを通じて現場の担当者が業務手順書を作成する」ことにより実践する方法について検証した。
- 「完璧な手順書を作成すること」が目的ではなく「現場担当者の業務の実態把握」を目的として、今回のワークショップ手法を取りまとめて「ツール」として提示することとする。
- 「ツール」の活用により現場担当者主導で業務の正確な実態を明らかにし、それを経営者が把握することで改善点が浮き彫りとなり、省力化やデジタル化、技術者以外の人材による対応など、ものづくり中小企業が人手不足に対して正確な経営判断に基づく対策を取ることができるようになることを目指す。

## 2. ツール活用の効果について

- 検証では、「現場担当者による業務手順書の作成」を実践することで、以下のような効果が得られることが確認できたため、これらをツールの中で紹介することとする。
- ・作成された業務手順書は「現場担当者の視点で業務の全体像を平易にまとめたもの」となるため、すでに社内にある業務マニュアルのガイドブックとして活用できる。
- ・マニュアルがない業務については、作成された業務手順書をブラッシュアップすることで、新たに業務マニュアルを策定することができる。
- ・業務手順書を作成する過程で、現場担当者の業務に対する理解度も把握できるため、適切な指導により効果的な社員育成につながる。
- ・業務手順書を作成する過程で、現場担当者から主体的に改善点が出され、経営者がそれらに的確に対応することで、働きやすい職場につながり、社員のモチベーションアップにつながる。
- ・ワークショップ形式により業務手順書を作成するため、業務手順書作成プロセス自体が社員間のコミュニケーションを取る機会となり、風通しの良い組織づくりにつながる。

